花巻市市民参画・協働推進委員会（第４回）【記録】

日　時　平成 23 年 1 月 13 日（木）午後 2 時～午後 4 時
場　所　花巻市役所本館 3 階　委員会室
出席者　委員 13 名（欠席 2 名）
内　容　１　開　　会
　　２　あいさつ
　　３　諮　　問
　　４　協　　議　　（１）市民との協働について
　　（２）市民参画の評価ついて
　　５　閉　　会

事務局（久保田市民協働・男女参画推進課長補佐）以下、久保田補佐　（本日の出欠席の状況を確認後、第４回推進委員会の開会を宣言。）

議長（照井委員長）　あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

前回、前々回と事例の研究を交えながら協働の視点から、これまで取り組まれてきたことを振り返り、それから今後の有り方を考えるというふうに進めて参りました。前回は四つの事例を事務局に用意していただきましたが、二つしか終われませんでした。今日は、前回も少しお話しましたが、最初に事務局から出していただいた、ガイドラインの項目案と照らし、これまで皆様方から質問やご意見をいただいて、まとめられつつある部分を現段階で項目に沿い、事務局に整理していただきました。皆様のご質問を受け、明らかになった部分やご意見を頂いた部分ですが、とりあえず今日の前段として、これまでお話しいただいたことを項目に従って吟味していただき、その後、残りの二つの事例をもとに補充できるところ、あるいは事例では見えないところがあるかもしれませんが、また必要に応じて事例等の提供もお願いしながら、3 月の答申に向けて少しずつ具体的な形にして参りたいと思います。なお、今日の終わりの時間を 4 時にしたいと思いますが、評価について協議が必要ということですので、ガイドラインの作成のことについては１５分くらい前に終わりたいと考えますのでよろしくお願いいたします。

それでは早速進めて参りたいと思います。最初に事務局から送付されている第 4 回委員会資料１－１をご覧ください。これは最初に事務局から出された項目案に基づき、これまでの皆さんの意見をもとに改めて項目立てしていただいたものです。さらに各項目に関わる発言が、次の資料１－２、１－３という形で整理していただいておりますので、例えばご自身が述べられた意見等で、ここは少し発言した内容と違うとか、もう少しこの点については協議して欲しいとか、あるいは付け加えたいなど、そういう形で煮詰めて参りたいと思います。

それでは進めて参りたいと思います。全体の構想は資料１－１で整理されておりますので、全体を見ながら細かい部分に入って参ります。資料１－２の左側の大項目ですが、「市民との協働とは」「協働の必要性」「協働の範囲」ここの部分につきましては、第２回の委員会で協働のイメージとして事務局から出された資料をもとにして皆様方からお話しいただいた部分でございます。まず、最初にこの部分に目を通していただきたいと思います。中項目に「市民との協働とは」という所がございます。記載内容の細い文字は事務局から説明のあった部分ですし、それに対しゴシック体は委員の皆

さんから寄せられた部分でございます。「協働とは」という部分は「単独で活動するより高い効果をあげられる」という説明がなされています。次の「留意事項」ですが、ここは皆さんからいろいろ意見が出た部分ですが、「協働することが目的ではなく、事業や課題解決の一つの手段であるという捉え方をしましょう」というところです。そして、ご意見の中には、「文章化してきちんと作ることが、逆に市民を締め付ける形にならないよう、緩やかに、柔軟な対応ができるよう進めましょう」というお話がありました。それから「協働の必要性」の中では「市民ニーズの拡大に対応」するという事で、事務局から「市民と行政が互いにそれぞれの持てる力を出し合っていくのだ」というお話がありましたし、委員の皆様方からは「公共サービスというのは最低の条件としてやっていただかなければならないが、さらにきめ細かな対応をするためには住民の声や目が必要であると、そのようにお互いに補完しながら、これまで以上に細かい対応をしていこう」、それからもう一つの考え方として、「行政で気が付かない問題点等についても、住民サイドから課題や提案等を出し、すすんで自分たちのまちは、やはり自分たちで良いまちにしていこうという視点で活動していただくことが必要だ」というようなことが話されたかと思います。それから、「市民自ら住みよい地域づくりの意識の高まり」では事務局から「市民自らが主体的に参加することによって、自分たちのまちづくりに対する意欲が向上してくるだろう」というお話がありましたし、委員さんからは「初めから意識の高まりを期待した形での進め方というよりは、いろいろ取り組む中で最終的に意識が高まるのではないか、そういう捉え方が必要ではないか」というお話もあったと思います。それから、「サービスを受ける側だけに立っていては掴みきれない生きがいや充実感というのは、自ら参加していく中で捕まえられる」というお話があったと思います。それから「協働の範囲」につきまして、事務局から図で示していただきました。資料１－３の１段目まで協働の範囲に含まれると思いますので確認願います。協働する場合には範囲や人をどのように捉えていくかをきちんと議論して進めていけばいいのではないかということが挙げられておりました。ここまでが事務局からの説明に対する皆様方からのご質問やご意見をまとめた部分ですが、もう一度ここを振り返ってみて、何か補充とか、あるいは確認しておきたいことがありましたらお願いしたいと思います。何かございませんか。それではお気づきの点がありましたら随時挙げていただきたいと思います。この後ですが、資料１－３の「協働の主体と役割」「協働により期待される効果」それから「協働において重要な事項」「協働の形態」「周知等の意見」これらについては事例をもとにした話し合いの中からご意見等を頂いて、まとめていただいたものですので、こちらのほうに進んで行きたいと思いますが、よろしいですか。なお、項目等についてはこれで確定ということではございません。答申が終わった後、市のサイドの協議も入り、併せた形でまとまっていくと思いますので、話が進んだ後に振り返ってみて気になる部分があれば意見としておおいに出していただきたいと思います。

それでは「協働主体と役割の部分」につきまして、目を通していただいて何かございませんか。前回は除雪についての事例でいろいろお話いただき、その後で大雪が降ったわけですが、花巻市もそうかもしれませんが、盛岡市のほうでも苦情が寄せられたことや予算のことなどが新聞に取り上げられておりましたが、協議した後、現実の問題にぶつかった時に協働の視点からすれば、もう少しこんなことも必要だというようなこともございましたら出していただきたいと思います。

吉田委員　　読ませていただいたんですが、よくまとまっているのであまり意見は無いのですが、読みながら感じたことは、一番最初に「範囲をどのように捉えていくかを議論し」とあります。三段目には「自分たちのこととして捉えきれていない部分が沢山ありそうな気がする」と、こういうことから言いますと、確かに町内会活動などで一斉清掃を

はじめいろいろな作業があります。例えば花壇作りや舗装になっていない道路の砂利敷き等をやる時にどういう範囲にするかということについては、そこの受益者といいますか、道路ならそこを利用する方々の範囲を決めて、あなた方でお願いしますとか、除雪についても自分たちの範囲でグループを作ってやって貰っているわけですが、ところが、自分たちのこととして捉えきれていない人が沢山いるわけです。町内会のリーダーとしては、できるだけそういう方に全員出て貰いたいのですが、強制できるものでもないので、声かけはするがいつも出ない人に対しては、陰でこそこそ「あの人はいつも出ないな」程度の悪口を言って終わりなわけです。この時に何が必要かということを体験上感じたのですが、確かに皆さんで論議したとおり、ここにも書いているとおり、強制できるものではないから、自ら当事者意識を持ってやってもらうのが目的となってますけど、それだけ放置しているとやはり、やらない人はやらないわけです。そうするとお互いに不信感を持ったり、地域で仲良くできない人も出てくるわけです。そういう時に必要なのは、班長なりそのグループのリーダーなりに強力なリーダーシップ、それがないとまずいと思うわけです。だからリーダーシップのある方がキャプテンでいると上手くいきますし、そうではなく、頼まれているから、今年一年班長だから仕方ないで何となくやっているところは上手くいかないわけです。そこにもう一つ上の段階で指導的立場の人がいてぐいぐいと引っ張って行くような組織指導をするのも必要ではなかろうかと。それが市当局とかあるいは行政区長だとか、市のほうで関係しているのはそういう部分だと思いますが、あとは振興センターだとか、そういう組織を使ってもう少し上の方から指導強化しないといろいろ問題が残ってしまうのではないかと感じました。確かに作業を通じて意識が高なっていくという点では、皆で自主的にやるというのは大事なことなのですけど、何も作業しない人は何もやらない。やらない人に町内会行事で声を掛けると町内会そのものにも入りたくない、町内会費も払いたくないという人も何人かいるわけです。そして、私は市民税を納めているから市の広報は貰いたいけれども町内会には入りたくないというような極端な人も中には居るわけです。そういう人こそ除雪でも一斉清掃でも引っ張り出すことが大事だと思います。そういうところで協働の限界がその辺にあるのかなと思います。それを一人でも二人でも仲間に引っ張り込むというような活動が大事だと思います。

秋山委員　　前回の委員会が１２月１５日でしたよね。その際に除雪事業についていろいろ検討したという経過がございますが、平成２２年１１月１５日に２２花土管号外で行政区長各位として、土木環境課長名で市道除雪の要望箇所等の受付についてという文章が出ているんです。そういった点で今申し上げたいのは、協働についての行政といいますか執行機関の組織形態を問いたいということがあります。というのは、１２月１５日の除雪事業の検討の際、区長宛の通達が出ていて、更に内容が市道除雪の要望箇所等の受付ということで、具体的になっているので、本来であればそれを事務局で資料として出して、こういうものを出していますということで、それも含めて除雪事業についての見解を問うということがあってしかるべきではなかったのかと思います。そこで行政の側の感覚。そこを一つ指摘したいと思います。以上です。

議　　長　　今、事例研究を進めている部分について、これを事例として、例えば今の話しですが、いろいろな会議があると思いますが、そこに一番新しい情報をきちんと提供して、それがいろいろなところで提供されていく中で周知が図られていくという意味で、行政の側もいつどういう会議があるか、そういうことを踏まえて情報提供をしていくべきだと。そういう形で押さえていければいいかなと思いますが、進め方としてよろしいですか。同じようなかたちでご意見等ございませんか。私も情報を共有していくということがきちんとなされないと、次にどうすればいいかとか、本当に必要性に迫ら

れてやるのだという思いがなかなか出てこないのではないかと、お話を伺いながら思いましたがいかがでしょうか。今回の大雪の話しですが、実は私の近くには丁字路があるのですが、その手前に横断歩道があるんですよ。その横断歩道の付け根の部分が雪の置き場みたいになっていて、子どもたちが横断するのに危険でしょうがない。それでスコップを持っていて作業したんですが、見かねた７０歳を過ぎた方が一緒にやってくれたんです。その時はそれで終わったのですが、次に雪が降ったらまた同じ状態になっている。私も３回はやりましたが、あとはそのままになっている。私自身の反省でもあるのですが、地域として考えれば、地域の方々、少なくともその近隣に住んでいる方々が、その状況を共有していない。個々ではいくらか気がついている方もいるかもしれませんが、人と人が繋がり合って、この問題をどうにかしようというところに向かないままで終わっている。多分、その後は個々で「あそこはいつも雪の置き場になっている」とか「それくらい配慮して除雪したほうがいいんじゃいか」とか、そういう個人のつぶやきというか愚痴みたいな形で終わってしまっている。本当はそれを何人かでもいいので共有すれば、「このままにしておけない」「どうする」ということになりそうな気がしますが、いかがでしょうか。

宮森委員　　除雪に関しては、私は大田に住んでいるので、良く掃ってくれているので町の中のような状態ではないですけど、やはり町の中は各業者によって、すごく親切度合いが違うということを聞きます。私の親戚もちょうど角の所に家があって、いつもそこに雪が置かれると。個人で掃うのは大変なので、去年、言った時は、その担当の方が次からそこに雪を置かなくなったので、今年も言ったところ、今年の担当の方には「そんなことはできない」と言われたということで、運転手さんにすごく個人差があるようです。双葉町の知人の夜しか開けない店舗の前は、日中に掃われると夜にはすごく硬くなり大変ということで、やはり去年お願いしたところ、そこの部分は掃わないでほかの部分は掃ってくれたのですが、それを市に電話したところ双葉町全体を除雪なさらなかったということで、行政区長さんたちが知人の所に行って、何とか除雪させて欲しいとなり、結局は折れた形で自分の店の前は夕方行って掃うような格好になったようですが、担当者の気持ち一つもあるのかなと。それから問題の共有ということに関しては、私も婦人会をやっているんですが、確かに良い情報でもなかなか伝えてあげられないのですが、会議等でも、まずは隣近所の付き合いが大事だと思って一回二回出なくても、とにかく呼びかけあって、どんな人でも三回くらい声をかければ一回は出てくるかなと、隣近所の声かけを強くしましょうということを話して取り組んではいますが、それでもなかなか周知はできていません。

議　　長　　ありがとうございます。市で業者に委託して取り組んではいるが、今の話では、業者さん個々の対応の仕方がバラバラだということですが、事務局へ質問してよろしいですか。こういうものを委託する場合、何年もやっているので市民から寄せられる苦情というのはある程度絞られていると思いますが、例えば、先ほどの横断歩道のところは雪を置かないとか、田んぼには雪を押して行っても良いが、門口に雪を置かないようにしてくださいなど、業者さんと委託契約を交わす際にルールとか除雪の際に配慮する点など、やりとりはあるのですか。

事務局（中村主任主査兼係長）以下、中村主任主査　　雪の降る前の１１月末頃から１２月初めくらいに除雪会議を開き、委託業者と行政で、その年度の方針や実施する路線、積雪が１０センチになったら除雪するなどの基本的ルールは確認し合うはずですし、業者さんごとの割り当てなどの確認はしているはずです。横断歩道に置かないとか交差点に積まないなど、そこは言わなくても当たり前の話として、あまり細かい話はしていないと思いますが、基本的な交通ルールに

則った、危険な場所には積まないとか、寄せられるところはなるべく寄せる等は基本的にはやっていると思います。ただ、今回のような大雪の場合、まず除雪しなければという場合は雑になったりすることが、もしかするとあるのかもしれませんし、業者さん全部にそれが徹底されているかといえば微妙かなという気がします。

議　　長　　先ほどの区長さん宛ての文書があって要望等を寄せるという話ですが、その場合は口頭で寄せるのですか。

秋山委員　　口頭が主になりますね。

議　　長　　そうすると、ある程度口頭であればその時に地域の実情に沿った形で若干のやりとりはできるわけですね。

秋山委員　　事例関係から言いますと、委託業者に対して、もっと細かに指導する必要があるのではないかと思います。除雪は特に１２月末に集中しましたから、業者委託で除雪している場所に沿った普通の住居は、玄関先に非常に大きく盛り上げられ、高齢者世帯は出入りができなくなり、正月中の休日でしたが、急遽、民生委員が高齢者住宅に行き一人で除雪するなどの実例が発生しているんです。また、国道４号線筋のディーラー関係が並んでいる場所は休日なので一切歩道の除雪をせず、車は通れるが歩道はまったく除雪されていないので歩行者は車道を歩いていました。こういうことはしょっちゅうあり得ることではないと思いますが、そういった際に除雪できるよう最悪の場面も想定した対応、これはもちろん行政もそうですし自治会でもそういう体制をとると、それを話し合って進めると、ここで協働の姿勢というのが出てくると、それが特に除雪関係では求められていると考えます。

議　　長　　ありがとうございます。ほかにございませんか。

市野川委員　　季節がら除雪から始まったわけですが、それに結び付けてお話しますが、民生委員が改選期で新しい委員が決まったものですから、先日、あいさつがてら中学校を訪問しました。佐藤校長先生がおりまして、いろいろ話し合いました。その中でいま話題になっている除雪の話が出たのですが、「中学生は土・日も部活で来ているし、平日であれば放課後も部活をするので、スコップ等を準備すれば子どもたちが高齢者や超高齢者世帯に行って、短時間でも汗を流すことでウォーミングアップに繋がるので是非声を掛けてください」というお話がありました。そういうことを思うと、捻じ曲げてこちらに結びつけるわけですが、この資料１－３の下のほうに「協働の環境づくりや協働意識の醸成」という文言が出てくるわけですが、除雪でも何でもやるということは気持ちなわけです。体力もですが。その根底には奉仕の精神とか思いやりの精神とか寛容の精神とか、そういうものが醸成されて初めて困っているから除雪をしてあげようかという心が生まれてくると思うんです。ですから、資料に一通り目を通してみましたが、若い人に、児童生徒、児童は無理かもしれませんが、若い子どもたち、花巻に帰って来ない子供たちも多いかもしれませんが、花巻を思う気持ちがあるのであれば、帰って来た時に、そのような気持ちを持って地域のために、社会のために尽くすということも大事だと思い出してくれるように、教育の場を利用するようなこともとても大事だろうな思っております。高校生の場合は受験などいろいろありそういう時間は無いと思いますが、小学校や中学校のときは思いやりの心や奉仕の心などをいろいろな場面を通して、授業とか学習の場を通して教えるということで、その実践例として、花巻中学校が声を掛けて貰ったら除雪に出かけますよといったくれたことを

考えますと、是非、この中には小中学校に出かけてどうのこうのとか、そういう子どもたちの心を養うとかということは出てきませんが、どこかに私は欲しいような気がします。皆さんはいかがでしょうか。

議　　長　　いかがですか。

藤井委員　　今いろいろと除雪の話がでましたが、本当は皆さんが何回も言っているように地域のことは地域の人が分かっているのだからとか、いま市野川さんが言った、思いやりのなどの心がなければ絶対駄目だなと思うのです。雪を掃っても何で俺の門口にとか、４号線のような道路を掃うにしても容易ではないのに、自分の門口ぐらいね、それをいちいち業者だとかどうのこうのと言うのではなくて、自分たちがそれぐらいは掃うという気持ちがなければ協働参画も何も駄目だと思います。ですから、私は、家のあたりの国道４号線沿い出入り口も、誰にも頼まれなくても一人でやっているような状況です。だから雪の降る時は、あの人は馬鹿みたいという感じがするかもしれませんが、それでも、他の人が見て、そういう人がいるのか、じゃあ私も手伝おうかというような、段々に小さいもが大きくなっていくような形の中でやらなければ、これは区長だからとか、自治会長の命令だとかではなくて、やはり地域の班があるような場合は班で、何かやったときにお互いの思いやりの心とかそういうものをお互いに話さなければ、これでなかなか、口では花巻に生まれて花巻に死んで安心で安全だと立派なことを言えると思いますが、それを言うには、やはり話があったように子どもたちも備え付けなければならないし、我々もですが、今、子どもたちは冬休みで、これから小正月行事でみずき団子などをやるには、地域の方々が、あの人だからやらなければならないではなく、やはり自分が、今言った思いやりとか、その人によって都合はいろいろあるとは思いますが、暇というのは作れば作れるんですよ。忙しいといえばそれは忙しいと思うんです。やはり今言ったように、思いやりとかお互いの協働参画とか、あるいは地域のことは地域でやらなければならないというような気持を備え付けなければ、その辺を話し合わないと、小さいものを大きく広げていくようにしなければ、市のほうにお任せして、伝達するから市でできるじゃなくて、難しいようですが簡単なものだと思います。

吉田委員　　いま市野川さんが言われたことも藤井さんが言われたことも要するにエゴですよね。誰でも持っているかとは思いますが。そこを意識改革して協働の精神に持っていくために、どうするかということだと思うんです。それで、自分が納得してといいますか、自らが意識改革をしてやってくれるのが一番理想なのですが、なかなかそれが難しいわけですから、例えば、中学生の雪掻き隊みたいなものを編成してもらって、お年寄りの所をやってもらうとか、非常にいい話なんですが、それを指導する人がいないと、なかなか自ら進んで、いま藤井さんがおっしゃったように、こういうところは皆で協力してやりましょうとか、ここはお年寄りでできないんだからやってあげましょうという意識がみんなに芽生えればいいんですけれども、現実的にはなかなか芽生えて来ない。そこで、私はここでも一部触れましたが、指導者といいますか、この場合の指導者とは市当局とか行政区長組織を言っているんですが、何回か広報でも出ているようですが、こうなったらこうしましょうなどのＰＲ活動、除雪はこうしますようというのは出ていますが、今よりも、もう少し密度を高く、こういう状態になっていますから隣近所が協力してやってくださいとか、除雪で門口に雪を置くような問題があるかもしれませんが、そういう時は地域でやってくださいとか、あるいは除雪車は運転手だけじゃなく二人ずつ付けることにし、一人は玄関のところに盛り上がった雪をよけるなどのＰＲ活動をもっとする必要があるのではなかろうかと思います。

議　　長　　はい。ありがとうございます。小さいところから拡げていく活動が必要ではないかと。それから今のように、どんどんＰＲ活動をして、やれること、できないからやっていただくことを明らかにして拡げていく必要があるというようなことでございました。他にございませんか。

市野川委員　　雪とは関係ありませんが、富士大の駅伝の選手が、防犯ボランティアをやりましょうと、７、８人が集団で夕方走っています。そして、怪しいことがあったらそれを通報する。これは自主的に出てきた活動だと思うんですよ。やはり、人というのはもともと善意から発生していると思っていますので、そういうことからすると、そういう雰囲気、環境さえ整えてやれば自然発生的に奉仕の心とか思いやりの心というのは生まれてくるものだと思うんですが、そのきっかけ、火付け役をどこかでやってくれれば、若い人たちが燃えてくれると思うんですよ。ますます、高齢化が進み若い人が減ってくる、税収も限られた収入しか見込めない、じゃあ小さな市役所だ、合衆市だ、という市長の構想もあるし、そうであればなおさら、市民の手も借りたいという思いがあると思うんです。ただ、いま中堅どころの働き盛りの人は、自分の生活をすることで精いっぱいなんですよ。三交代もありますが、普通であれば８時前には家を出て、夜７時、８時まで働いて帰ってきて、とても地域のことなんか考えていられない。自分の家の生活さえも維持するのが大変だというような人が結構多いんです。本当はそういう人たちが中心になってやってくれれば、何でも上手くいくわけですが、現実的にはできないということであれば、若い人とかお年寄りでまだ元気な人が中心となって色々な面で頑張っていただきたい。それが合わさればいわゆる協働の精神とか、この委員会の趣旨も活かされてくるのではないかと思っています。繰り返しですけども、幼少期の刷り込みというのは年を取っても残っていくと思うんですよ。ですから、教育委員会をとおして普段やっているとは思いますが、小さい時に行政なら行政が思いやりの心とかを刷り込みで脳の中に入れておいて、それが何かの時にパッと出る。阪神淡路大震災のとき、あれだけのボランティアが集まったというのは、刷り込みで、当時教わったことを考えているうちに自分も何かやろうと掻き立てられたのではないかなと思いますので、機会があったら小学校、中学校でこの計画のなかの協働というものをアピールし、お話いただければと思います。それで、この計画はどの程度のスパンで考えているかわかりませんが、１０年くらいすれば見直しなどが当然出てくると思いますが、それも土台になり次の規約ができていくと思いますので、大事な部分だと思います。ですから、基礎が大事なので小学校、中学校あたりの教育面にこの趣旨を伝えて心を養っていただければなと思います。

秋山委員　　個別の事業と直接関係のない全般的なことですが、行政と市民の接点の関係ですが、それぞれの現場や地域で必要なのは、常々考えていることで別な会議でも発言したことがあるかと思いますが、市役所の職員の方が、地域の、いわゆる自治会の行事になかなか顔を見せていただけないということがありまして、本来、市役所の方もそれぞれ忙しいでしょうけれども自治会の総会に顔を出すとか、新年会とかがありましたら、出席するとかということであれば、いろいろ話も聞くことができるだろうし、ここの地域にはこういった課題があるんだなというようなことも理解が進むと思いますし、これは市民の側、自治会の側からの要請でもあるわけなんです。なんとか市の職員の方に出席していただきたいという要請ではありますが、それを直接口にしづらいということもありまして、行政と市民の協働の大きな接点の一つとして私は考えたいということで、市の職員の自治会への視点を書いて欲しい。

市野川委員　　それについてですが、私の地域では市役所の職員は極めて地域に交わろうとしています。多分、上のほうからそういう話があると思うんですが、例えば有給ボランティア、除雪などでは募っているようですし、消防職員もそうですし、市職員は全員、消防団に入っていますし、何かをすると言えば必ず出てきます。その後に飲み会があるからかもしれませんが。例えば、昔の合同庁舎で賢治祭を行った時に所長さんがおいでになり、あなた方は自分の仕事も大事だが、やはり地域の中に入っていって、いろいろ相談ごともあるでしょうし、奉仕的な活動もできるのだからどんどん出かけなさいと上司に言われているといって合庁から来て、蚊に刺されるような所で仕事をしていただいたのは初めてでした。市のほうでもこのような指導はあるんですよね。

中村主任主査　　市長のほうからは公務員ではなく、市の職員として地域に交わりながら働きなさいということは言われています。

議　　長　　うちの自治会も事務局長は市の職員がやっておりますし、結構、大丈夫かなとこちらで心配するぐらいのところがあります。ただ私は、市の職員は２４時間市の職員という感覚ではなく、家に帰ったら地域の一住民とそれなりの活動をすべきだと。そうすると市の職員としての経験を踏まえた地域活動ができるんですよね。これが、逆に市の職員として仕事を進める上で、今までの発想からは捉えられないものが出てきたり、なんというかバランスよく、いつも２４時間、市のことばかり考えているとかじゃなくて､いろんな場に自分の身を置いてみるというのは必要じゃないかと思います。少し気になっていたのは、先ほど藤井委員のほうから、自分で雪掃いをすると。多分、通りすがる人は、なんてかたことな人だろうという見方をするだろうと。私もそういう思いはしたんです。その時に一言、その通りすがりの人が声を掛けるとか、あるいは少しでもいいから一緒にやってくれるとかというのは凄いエネルギーになるんです。自分ひとりだけで３回もやると力はまだあるが気持ちが滅入ってくる。自分がこうやっていてもいいのかなと思ったりもする。先ほどリーダーを育てるという話もありましたが、ちゃんとした形でリーダーを育て、それから何かを始めるというよりは、一歩踏み出した人に次の段階の人が声を掛けるとか支えることができるというような、案外そういうちょっとした事の中に育つ源があるのではないかという感じがします。先ほど市野川さんより花巻中学校の話がありましたが、花巻中学校の廊下に「気づき、考え、行動する」というのが掛けてあります。気付くというのは、大体の方は気付くのですが、忙しい中で、下手に自分が気付いたことを表明すると、その後何かしなければならなくなるのではないかということで、できるだけ気付かないようにしようという雰囲気が生まれがちです。その時に一歩踏み出すかどうかということは次に気付いた人が、やはりそうだよなと、支えるというか押すというか、自分も一緒にやるとか、そこが非常に大きい感じがします。実は雪掻きも前段の話がございまして、学校から校地内の除雪をして欲しいという要望が沢山きた時があり、その時にせっかくの機会ですから生徒と先生方で除雪をやりましょうと、それは今大事だと言われている体験にもなるし、協働でやることの喜びも味わえるし、あるいは人の踏み入っていない場所を除雪することで達成感を味わえるなど、非常に教育の材料としてはいいということで、スコップを各学校に買ってあげたということがあります。そういうちょっとしたとっかかりの部分を援助すると、子どもたちが自分たちで当番表を作ったり、朝早く来て除雪をしたりするようになっていきました。それ以前は雪が積もれば先生方が市に掛け合って機械を回してもらうなど､そんなレベルで進んでいたものが、自分たちのこととしてやり始めたと。何かこの協働の取り組みが出てきた背景の中には、そういう市でやるものとか地域でやるものの間を取り持って、正に一緒にやれば付加価値も高まるし、今まで経験できないこともできるという、何かこのあたりの取

り持つ仕組みがあったり、そういう人がいたりすると協働がいい形で進むのではないかなと話を聴いていて思いました。ほかの委員の皆さんはいかがでしょうか。

市野川委員　　農協さんでも除雪ボランティアをやっていますよね。

瀬川委員　　そうですね、ボランティア活動は認知症サポーターなどいろいろとやっておりまして、そのほかに年間一週間お休みをあげますから地域ボランティアをやってくださいと。経費も若干お手伝いしていると。そういうことはずっとやっています。今年度は高齢者と子供の１１０番を全域でやろうかなというように、取り組む事を決めておりましたので、無理しないでやれることからやるということで進めています。人作りについて先ほどお話がありましたが、人作りというのは非常に大切なことであって、昔だと隣近所の結いという精神が非常にあり良かったのですが、最近そういうものがないというのは、今の中堅どころ、働き盛りというのは市場経済の中でずっと育ってきたということで、効率性というものだけを求めてやられてきたというのが底辺にあるのかなということを思っていまして、そういうものの中で今の子供たちが育まれているということもあり、きっかけが結いということの繋がりが今は薄れてきているので、私どもＪＡの中でそういうものが持てるような環境の支援をしたいなと、集落の中の農家組合というのがありますが、その中でも後継者育成を項目として一つ入れて取り組みをするようにということで、やっているところであります。まだまだ成果は出ないのですが、無理せずやれればいいなということで取り組んでいます。

議　　長　　先ほどの個人レベルの誰かが取り組んでいることに一声かけるというのと、同じように、今のような形で事業所とか各ボランティア団体とかがやっていることの情報の共有がもっとなされていけば、タイガーマスクではないですが、良いイメージの参画の仕方といいますか、頼まれたとか、やれと言われたとかということではなく、自分たちにできる形はどういうものかという発想で、しかも一歩踏み出せるとそれが次のエネルギーになっていくといいますか、そういうような気がしておりますが、いかがでしょうか。何かそれぞれの方の所で今のＪＡさんのような形の事例がありましたらお願いします。

渡邉委員　　事例はないんですが、前から思っておりましたことで、この市民活動団体というのが書かれていますが、市民活動団体といえば、自分がいろいろ入っていると言いますか、やっていると言いますか、いろいろなサークルが思い浮かぶのですが、ここを見ると、自治会関係か婦人団体ぐらいしか出て来ないので、私が関わっているような市民団体とかは、市役所の方たちの頭には無いのかなと思いながらいたんですが、どうなんでしょうか。というのは、お話を聴いていて、私たちのは小さな市民活動、サークルなんですけれど、東和野鳥の会や花巻野鳥の会もやっていますが、例えば東和野鳥の会などはその会に入ったり、または開催日にいらっしゃる人たちは、必ずしも鳥に興味があるのではなくて、車に乗せられてどこかに連れて行ってもらって歩くのもいいなと言って来るような方が半分です。ところが、私にとってはそういう思いがけない人たちと出会うというか、付き合いが始まるというのはすごく良い事だなといつも思っていますし、この話に無理矢理付け加えれば、歩くついでにゴミ拾いもしますし、とにかく人との繋がりは広がるんですよ。劇団でも私がやっている小さなサークルとか勉強会なんかでも人との繋がりが広がって、自分ではなかなか友達にできないような人たちとも友達付き合いをせざるを得なくなるというよりは、やはり人との付き合いが広がるということで、こういう市民活動団体というのは、そういう趣味の会と言われる、私などはオタクの会と言われるぐらいの趣味の会なんですが、そういうほうが

案外、人との繋がり、偶然地域が一緒だったりすると、一段と繋がりができるような気がしまして、いつも私はそっちのことしか頭に無くて、除雪とか自治会などと言われますと、私はちょっと足りないなと思うのですが、そんなことです。

議　　長　　事務局に案を作って貰ってそれがいいかどうかというのを協議しようというのではございませんので、どんどん今のようにサークル活動にはこんないいところがあるとか、こういうことをもう少し広げていこうとか、そういう視点でお話していただいていいと思いますので、個人の部分もありますし、少し広がったサークルの部分もあると思いますので、しっかり組織を作ってやるものもあると思いますし、いろんな形があるということで進めたいと思います。

佐藤委員　　皆さんのお話を聴いておりまして「隣組」と少し思い浮かんだのですが、この市民協働の基本はやはり昔の隣組といいますか、今でいう行政区、班単位なんだろうという感じがしておりまして、特にこれから少子高齢化社会が進めば、一人暮らしの方がどんどん増えてくるわけでありますし、そういう意味では地域でも見守り、助け合うということが必要になってくるんだろうと思います。先ほども結いの精神が非常に薄れてきたという話がございましたが、いま一度見直しをして、地域でもそういう形にしなければならないのかなと思っています。先ほどの除雪の話でも公道は行政のほうでやるわけですから､門口から自宅までは地域の人たちが協力してやるということが、ますます必要になってくるのではないかと思います。私も大町ですが、いま行政区長さんと町内会長さんが兼務しておりますし、なかなかリーダーになる方が少なくなってきているというのも現状ではないかと思います。そう意味ではやはり一部の方に負担を掛けないでお互いがやるような形で進めていかなければならないと思います。町内にも青年部とか女性部がありますので、組織だった動きというものこれから必要になってくるのかなと思っておりました。

議　　長　　ありがとうございます。今リーダーのお話がありましたが、リーダーはこうでないといけないという形になってきますと、なかなか次のリーダーが､「自分はそこまでできないのでお断りします。」というようなことも自治会では出てくるので、やはり普段から、一人に集中させず、組織としてこんな形でいけば地域的には可能だよとか、そういうところを探りながら、その地域のリーダーというのを育てていかないと、次のことを考えると大変だろうと思います。その人が頑張れるうちはいいけれども、後が無いということになるとまずいなと思います。

吉田委員　　今のリーダーの話で、かねがね考えていたのですが、いま副委員長さんから町内会長と行政区長を一人の人がやっているという話がありました。リーダーのなり手が居なくて、本当は二人のほうがいいが一人になったということがあるのかもしれませんが、そうじゃないかもしれない。一人の方がやりやすいという事もあるのかもしれない。私が前から思っているのは、４年くらい前から小さな市役所の関係で、地域振興センターというのが始まりました。そこに各町内から選ばれたりして、委員になったり役員になったりしているのがまず一つ。それから行政区長というのが町内から推薦した人が市の承認を得ています。このほかに自治会、町内会があるわけです。そういう三つの組織でそれぞれ別の人がなっていますと、さっき言いました情報伝達だとかＰＲだとか指令だとか、それがなかなか統一されない現状にあるわけです。これは行政区長の仕事で、市からの情報を、何か自治会で行う行事に、たまたま出席していただいて発表してもらい、伝達する。町内会は町内で、しょっちゅう役員会を開いて、綱引きをやろうとかミズキ団子をやろうとか世代間交流しようなどと、いろいろ決め

ているわけです。そのほかに、まちづくり協議会という地域振興センターの組織に町内から出た代表が時々来て、まちづくり協議会ではこんなことを話し合ったので町内でも受けて貰えないかと。自主防災組織を皆で作ることになったから、うちでもやらなくちゃならないというような話が出てくるわけです。何かバラバラなんですよ。私はその組織統一を検討する時期にあるのではなかろうかと、今、市役所の方がおられるので、一地域住民の意見として、三つの組織からバラバラに指令が出てくるような状態だと、なかなか強力なリーダーシップを発揮できなくなるではなかろうかと思うので提案させていただきます。

議　　長　　ありがとうございます。地域で活動していて、いま吉田委員からお話があった点について何かお考えをお持ちの方ございませんか。

宮森委員　　リーダーに関して、私が見聞きする中で、どうしてもリーダーになる人は行政にも通じてないとなど、いろいろ条件を言われると、おのずと公務員をしていた方とか、そういう方を目星に選ぶというきらいが私たちの地区にはあるような気がします。結局、行政に通じているとものの運び方も同じ地区内のおいても違うのではないかというので、そういう経験があった区長さんと全然ない普通の企業から退職になってなった方とのギャップが出てくる。人にもよるのでしょうが同じことを言っても理解度が全然違ってきてしまうところはあるのではないかなと思います。そういう違いをならして、みんな平均的になるというのは難しいのでしょうけれども、これから合衆市に関しても振興センターに地区から誰かを出すという時に、いま一生懸命検討している中で、どうしても行政に通じて人を一生懸命探しているんですよ。だから、行政に通じない全くの素人さんがなったらどうなるんだろうと思いながら、私たちの地区でも明日、臨時総会があるんですが、どういう形でまとまるのかなという、楽しみでもないですけど。何でもできる人というのを希望するのではなく皆が押し上げてあげれば。

議　　長　　逆に考えれば詳しくないために見えるといいますか、詳しいゆえに見えなくなっている事もあると思いますし、そういうことを考えた時にある人に絞り込んだ方がいいのか、あるいは複数で連絡を取りながら対応した方がいいのか、いろんな事が出てくるとは思いますが。

宮森委員　　会議一つに出ても、そのとおり何も知らないと、ものの言い方一つから違うと、段々、きっと普通の人は怖気づいてきちゃって、会議に出るのも嫌だなと思うのではないかなと。行っても静かにしているとか。そういう感じの活動になってしまうと伸びってないですよね。だからリーダーも難しいですよね。押しつけてもいけないでしょうし。

浅沼委員　　戦後の時は、苦しいから結いなど皆さんで力を合わせて事に当たって行こうというのが多かったんですけれども、ある程度ゆるくなったので核家族的な感じで、農村地帯の若い人たちは花巻とか北上に出て行って、残っているのは親。その親が危なくなっても帰って来ないという状況ですから、農村はかなり厳しい状況です。自治会活動に出てくださいと言っても年々出てくれる人は少なくなっていっているというような時代でもありますが、一般的にその地域で一緒にやるという行事自体も少なくなるし、祭りなども出て来なくなるし、子どもからお年寄りまで出て楽しむ盆踊りがかすかに一つの地域で残るくらいですかね。それはかなり貴重ではないかと思っております。そういう事がないとなかなか助け合いの精神も生まれてこない。評価的なものを申しますと市民総参加クリーン作戦ですか、あれはある程度の効果が出てきていると思います。ただ、総参加と謳っている割には一世帯から一人が出ればいいほうだなと。こ

れが皆さん家族で出てきてくれれば、かなり効果が上がるのではないかなと思いますけれども、学校関係は協力しなさいという立場で生徒さんたちが出てきてくれます。また、不法投棄やポイ捨ては年々激減していると思います。除雪に関しては、前回の会議の時も大雪になりましたが、いつだったか日報の記事で盛岡の除雪と青森の除雪の差というものが出ていたような気がします。青森のほうは当然昔から雪の量が多いから、市民も個人個人の自覚が違っていて、市側には苦情もたくさん来ているとは思いますが、市側からすれば市民の協力もなかなか無いというのもあると思います。盛岡のほうは都市的な構造で、皆さんも盛岡に行くと除雪が悪くて走りにくいというのがあると思いますが、路上駐車がたくさんあり、夜間は、どうしても除雪ができないというのがあるそうです。青森のほうは少ないという記事が出ておりました。そういうことで、一斉に掃ってくれればいいんでしょうけれども、素早い除雪をするためには、市民一人ひとりが邪魔なものは路上に置かないという配慮が必要ではないかなと思います。苦情を言う前に少し我々も見直さなければならないこともあるのかなと思っております。また、こちらの市街地と、我々の田舎は違った問題が出ておりまして、雪プラス倒木という問題が出てきます。道路際の倒木ですから大抵、電話線か電線に引っ掛かってしまうんです。そういう時は伐採もできるのですが、個人的に伐採をするのはかなり危険も伴うということもありまして、手を出しづらいということもあります。いずれにしろ、記録的豪雪で皆さんもまいっているとは思いますが、市でも予算が無くなって補正をしなければ駄目だということも聴いております。それにしても、素早い除雪ができる環境を整えるというのは我々一人ひとりが邪魔なものを路上に置かないというような配慮が必要ではないかと思っております。

議　　長　　ありがとうございました。ほかにございませんか。目に見えるような具体的な手立てを作り上げていくことで進められる部分と、意識を高めながらやっていかなければならない部分とあると思うんですよ。意識の部分について、気の持ちようだというのは、一見無責任なような響きではありますが、逆に気の持ちようで今までできなかったことができるようになるということも現実としてあるんですよ。先ほどの一声掛けるとか、ほかでやっていることに少し関心を示すとか、意識の部分でいうとそういうことが一つの運動として、例えば除雪といった時に、除雪する側にはこんな問題があるとか、こんなことで困っているとか、あるいは自分の土地くらいは自分でやるということは分かっているが、除雪車が通った後でこんな雪の塊を置かれたらできない。むしろ何もしない状態のほうが自分でできるとか。何かちょっとしたズレと言いますか食い違いがあって上手く進んでないのかなとか、意欲まで削がれているのかなという感じもします。例えば、思春期の子供たちというのは非常に難しいんですが、普段、先生の言うことなんて聴きたくないというような子どもたちでも、自分ひとりで運ぼうと思えば運べるような長机を、「ごめん、ちょっとそっち側をもって頂戴」と、これだけで次からの子どもの受け止め方が全然違ってきます。一緒にやれたということもあるし、実際に一緒にやって具体的に感謝の言葉を掛けることができたということもありますしね。また、いま結いが崩れているとかいろいろありますが、とてつもないことをやらないと回復できないと捉えるのではなくて、案外日常の中にちょっとした、何回も言いますが声がけだとか、ちょっと手を添えるとか、そういうものが協働を進める時に非常に大きい要素になるんじゃないかなと、行政の方が進めるにしても、業者さんが除雪をするにしても、一声、「いま、あちこち大変で、申し訳ないがここに雪を溜めておいてしまったので、なんとか地域の方でお願いできないか」など一声掛けることでずいぶん違うのかなと思ったりします。そのあたり何かないでしょうか。

浅沼委員　　大きな道路は、全路線を素早く動かなければならないので、個人個人の進入路の所

まで除雪をしなければならないとすれば、到底回りきれないことは分かります。ひどい方々のところを掃うというのはかなりの数でしょうから、シルバーなどに登録されている方はあるんでしょうけれども、除雪に限らず今はライフスタイルがスピード化して、ゆっくりというような感覚ではなくなってきていますから、とにかく素早く片付けるような。自治会の役員さんたちのところも終わったところはかなり少ない。役割分担をしてそれぞれやっていただけばいいんでしょうけれども、考えている間に次から次へ行事が入ってきますから、何かをやるときは自分ひとりでぱっぱっぱと済ましたほうがいいというような感覚でやると、なかなか仕事の内容も分かって貰えないのは分かるんですが、自分が背負ってしまうとやる気が出ないというのも確かにあります。

藤井委員　　いま委員長さんがお話したように、宮野目地区では敬老会は体育館でやっておりますが、机が足りないんです。そうすると学校とか地域から集めるんですが、中学生にやっていただいております。そうすると区長さんや民生委員さんも高齢者ですのでかなり助かっております。だから、声掛けしていただけば子どもたちも喜びます。協働参画のことを言えば、いまのコミュニティを２年も３年も積み重ねて順調に進んでアメリカ合衆国どうのこうのというのを考えているようですが、地域の格差も相当あったようですが、各地区コミュニティ会議の発表をよその地区の方が聴きに行ったりして、情報交換という形の中でやっているので、コミュニティの地域の団体が、必ずしも区長とかではなくて、いろいろな団体がありますので、行政のように広報活動とか、敬老会とか、防犯とか、あるいは街頭などという形で地域で分担してやっていれば、前のように、問題があれば区長さんが市に行って交渉するのではなくて、ある程度、市のほうから頂いて、案分してやっているので、もう少しコミュニティを利用しながら協働参画のこともやっていけば、ますます効果が出てくるのではないかなと思います。ですから同じコミュニティ内でも田舎ほどこぞってやっていますし、都市化したところほど駄目なようです。あの人が口うるさいとか、あの人がどうだとか、そんなことばかりやっているんです。やはり自ら誘い合ったりするような気持が無いと協働参画にはならない。地域を皆さんで盛り上げていただければいい方向に行くのではないかと思います。ここで行政がどうだとか、自治会がと言ってもなかなか難しいと思うので。

市野川委員　　ＰＴＡ連合会でこの市民参画が話題になることはありますか。つまり、ボランティアの声がかかったら積極的に出かけるように保護者さんたちも支援しましょうとか、そういうのはどうですか。例えば祭りがあるから部活があるけれどもその期間だけは休んで山車づくりの応援にでかけたほうがいいとか、そういうことが話題になることはありますか。

鎌田委員　　市のＰＴＡ連合会では話題にはならないです。各学校や各子供会の中での話題だと思います。

議　　長　　ここ何年かは、学校と家庭と地域と正に協働で子どもを育てましょうということが、徹底されてきています。だから、そういう視点から考えると、今までお話が出た、例えば何かをやるときに、部活との絡みで子どもたちにお願いすることがあってもいいのではないかとか、今のように机がないから運ぶのを頼めないかとか、あるいはお話には出ていませんが、情報を住民に徹底するために子どもたちにパソコンでこういう情報提供の文章を作ってくれないかとか、そういう形を通して、ただお願いするというのではなくて、子どもたちがそのことに取り組むことで地域のことを意識してみた

り、自分たちも役に立つんだという思いになってみたり、そういうことは結構出てくると思います。だから、協働とか参画ということを進める時に大人だけのものとしないで、子どもたちも含めて市民として自分たちのできることを出し合いましょう、役に立たせましょうと。それはご老人の場合も同じであって。何かそういう深いというか、そういう参画の仕方、協働の仕方を求めていくことが必要ではないかなと思います。私は学校にいましたけど、学校という所は人口密度が地域では一番高くて、エネルギーもそこにどっさりある。これを地域のためにどう活用するか、活用したことが、逆に子どもたちを地域の人として育てる、市民として育てることになるんだろうと思います。そう意味でいま出ているお話というのは非常に大事な視点ではないかという感じがしています。前に大学生の、一斉清掃の時のお話でしたか、情報提供をすることで、そこに出てきた学生さんと地域の方と交流も深まるのではないかというお話がありましたけれども、単発でものを考えるのではなくて、そのことがほかに効果を波及していくとか、価値を更に高めていくとか、そういう捉え方をしながら、一方的に頼まれたことをやるのではなくて、この機会に育てていこうというような強かさも欲しいような気がします。そういうことの実践の交流の場があると、いいような感じがしてきます。

秋山委員　　先ほど佐藤副委員長から隣組と言いますか、班と言いますか、それの地道な活動が重要だというようなふうにお話をお聞きしましたけれど、リーダーの関係で言いますと、ここにいらっしゃる方々は少なくとも私を除きましては皆さんリーダーの素質を持っている方だろうと考えておりますけど、リーダーを作り上げるという関係で経験がございましたので、そのことに触れてみたいと思うのですが、平成三年に私が桜町一丁目に居を構えたときに、目の前に広い空き地があり、これはどのような空き地だろうということで調査しましたら、市の所有で公園用地になっておりました。市の方に聞いてみますと、そのような公園は無いということになりまして、さらにそれを詰めていきましたら、そのあたりの都市計画の際に緑地帯が必要だということでできたのだということが分かりました。それで市の所有だということで、いろいろ働きかけまして、当時の都市開発課に公園認定をしてもらいまして、公園を綺麗にする会を作りまして、一定の管理をしながら市から補助を受けるという制度を知りまして、私が言い出しっぺでしたので綺麗にする会の会長をやって、近所の人たちをみんな誘いまして、全部で２１世帯、桜町一丁目の自治会の一つの班でしたけれども、そこで市の助成に基づいて、こういう会を作って、年間を通して公園を管理していくと。契約でいきますと５月から１０月まで６ヶ月管理すると、そして当時でいいますと３ヶ月３万円ですから計６万円ですが、それに基づいてやったと。そして今でも続いているのですが、私は６年間やりまして、長くなったので代わりましょうということになりましたら、やってみるという方がおりまして、その方が２年やって、歳だから辞めるということになりましたら、今度は若い方が出てきて担当していただいて、２１世帯ですけれども高齢者世帯を除いて毎月１８世帯ぐらいが除草などやっており、リーダーの交代は上手くいったと思います。したがって、そういう班のようなもの、結い的なものを地域で地道に推し進めていくということが、今は本当に大事になっているのではないかと思います。それに先ほど申し上げましたように、行政として補助金を出してやってきているんだよという協働の絡みがそこに出てくるし、認識も市から補助がありできるんだということも会員はしっかり意識をして活動をしています。協働の実態だと捕らえていいのか、今はそう感じているというのが実際のところです。

議　　長　　その花壇の整備とか管理を一緒にやってきたという人の中から後継の方が出てきたということですね。

秋山委員　　そうです。

議　　長　　その管理とか美化の活動そのものに意義を感じて、楽しみを感じてやっているということですよね。

秋山委員　　そうです。今は４０代の方が中心となって、皆さんを集めて活動をしています。

議　　長　　リーダーを育てる活動そのものを長い見通しの中で発展させていくというような展望がないと、今さえ頑張って切り抜ければなんとかなるというのでは、参画だとか協働というものはなかなか定着しないだろうなと、お話を伺いながら思いました。ほかに今日の資料をご覧いただきながら補充したいところ、確認したいところはございませんでしょうか。

市野川委員　　土田先生は地域経済学がご専門なんですか。

土田委員　　理論経済学でございます。

議　　長　　今までの皆さんのお話を伺って、先生のほうから何かございませんか。

土田委員　　大変貴重な話を長い時間伺いまして、勉強になりました。ただ、ここに勉強に参っているわけではございませんので、大学として官民協働、あるいは自立と協働の仕事にどんなことで貢献したかということを紹介したいと思います。ただ、人のを紹介しても仕方ないので、私自身が実際に関ったことで１点だけ申し上げますと、うちの大学はこの花巻市で少なくとも昭和５３年から市民セミナーというものを開いております。昭和５９年からは市と教育委員会と共催で開いております。市からは場所を提供していただきまして、最初の頃は宮沢賢治記念館も生涯学習都市会館もございませんで、木造の中央公民館でやっていた次第なんですけれども、そのように場所の提供を受けまして、あとの講師の謝礼金とか講師の調達とかは一切、大学のほうで持ちました。そして、市と共催しながら広報に載せていただいて、ずっとやってきております。１回の参加者は変動がありますが、少ないときでも３０人以上。多いときは７０人から８０人ということでございました。隔年に４回から６回、１０月から１１月にかけて開いております。こんなに息長く市と一緒に私立の大学がやってきたというのは珍しいのではないでしょうか。今でこそ独立法人化ということで公的な大学も一生懸命ブランドと資金力で、税金力でやっておりますが、うちは本当に自立と協働でやってきております。ですから、結果論ではございますが、ここでやられてることに沿った形ではなかったのかと、私もそれに関れて幸せだったのかな思ってます。私は１９８７年から担当しまして、今は外れておりますがずっと担当しておりまして、その時は宮沢賢治の甥子さんが、担当から外れることになり私が引き継いだ形でやってきましたので、一つ紹介させていただきました。やはり大学らしく地域に高度教育の学習機会を大学に様々な理由で来られなかった方々に保証したいという精神でやってきております。

議　　長　　ありがとうございます。直接今のこととは関係ないんですが、富士大学さんでは１０年目になりますか、童話大賞の取り組みも重ねておりますよね。全国の都道府県の中で応募していないのが一つか二つあるかどうか。ほとんど全ての都道府県から、高校生が童話の作品を寄せて来られるんですよ。それを大学のほうで全ての経費を持っ

て第１次審査からやられている。しかも大賞とか入賞された方を招待して、その方々に花巻を歩いていただくなど、そのようなこともやられてきておられますし、大学と地域が一緒になった活動を長いこと続けてこられています。これからいろいろと活動を広げていくためのヒントが蓄えられているのではないかと思います。ありがとうございました。荒川さんは何かないですか。

荒川委員　　学校側がそういうセミナーを開催していたこと自体よく知らなかったので、次から調べて参加したいと思います。

議　　長　　ありがとうございます。すみません、時間がなくなって参りましたので、今日のお話を参考にして、改めて項目に従って吟味してみたいと思います。この後、評価のお話もありますので、そちらに移りたいと思いますけど、今日出たお話の中で特に参画、協働を進めていくときに現状の課題とかを踏まえて、いろいろな情報をいかに共有していくか、問題意識なり課題意識を市民それぞれが、あるいはいろんな立場にある方々がその立場で、どう捉えていくかということが一つのポイントになるのではないかと思いましたし、それから、いろんな所でいろんな活動をされているんですが、案外ほかの所でやられているものが、どんな趣旨でどんな活動をしているかということを知らないままにとか、言い方は少し酷くなりますが、あまり関心を示さないで自分たちの事だけに一生懸命になっていることがあるような気もしましたので、今日は具体的な手立ての部分をさらにそういう意味での意識、市民として花巻市を構成する個人なりいろんな団体の方々がそれぞれにもっと関心を向け合うといいますか、関心を持てる機会なりチャンスをいかにして作っていくかというあたりも、参画協働を進める上で非常に大きいのではないかなと思います。少し極端な例でしたが、せっかく取り組まれている富士大学さんの活動が学生さん知らないとか、これはいろんな所で沢山あるんですよね。私も市に居たことから反省してまして、部署が違っただけで隣で今どういうことが課題になって進んでいるかというのにあまり関心を示さないままとにかく自分たちは今年はこれをやらなければならないというふうに進んでいるところがありましたし、少しチャンスがあってもできるだけ気づかない素振りをしてみたりなどということもありましたし、なにか結いとかというのも自分以外の人なり、周りに関心を示すというのが第一歩になるというような感じもして参りましたし、そういうことで３月に向けては、具体的な形で正文化していかなければならないんですが、その背景といいますか内面的な部分もいかにして高めていくかの発想を、あるいは知恵をこれまでの皆さん方の経験から集約して大事にしていかなければならない一つの柱として、まとめていければいいなと感じがしておりました。それで、協働のあり方の協議の部分はこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。時間がないところでございますが、評価の部分について資料とご説明をお願いしたいと思います。

事務局（阿部市民協働・男女参画推進課長）以下、阿部課長　　その前に一点だけ補足させていただきたいと思います。今皆さんで確認いただきました委員会資料１－３につきまして、皆さんがおっしゃられたことをこのような形で整理してみましたけれども、なかには言っている意図が少し違っているということもあるかもしれませんので、そういった部分がもしございましたら、後ほどで結構ですのでお知らせいただければと思います。これを参考にしながら今後、職員チームの中で指針としてのたたき台というふうなものを整理していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは次に次第の２番でございます市民参画の評価についてということで、資料ナンバー２の方をご覧いただきたいと思います。これにつきましてはガイドラインの中で重要なものについては２つ以上の手法でもって、市民参画をいただくということ

になっておりまして、今回、３月定例議会に向けまして、新たに条例の改正等が生じて参ったものがございます。今回の案件は８件ございますが、全て重要なものとしての対象には該当しないということで様式２号の市民参画計画書は添付されてございません。一通り内容を説明させていただきたいと思います。

（資料説明）

議　　長　　ありがとうございました。委員の皆様方から質問等ございますか。それでは、無ければ間もなくお約束の時間になりますので終わりにしたいと思います。事務局のほうで何かございますか。

阿部課長　　次回の委員会の開催ですが、先ほど申しましたとおり、指針のたたき台、ある程度整理したものをお示ししたいというふうに考えておりましたので、次回の委員会を２月中旬に開催したいと思っておりましたが、日程を調整したうえでお願いしたいと思います。

中村主任主査　　あと一点、皆様のお手元のほうにチラシを配布しております。協働のまちづくり推進セミナーということでＮＰＯ法人の花巻市民活動支援センターの方で基調講演とパネルディスカッションを含めて、協働のイロハのイのところからやりたいということで委員の皆様にも是非お時間があればご参加をお願いしたいという申し出がありましたので、チラシを配布させていただきましたのでよろしくお願いいたします。

議　　長　　ありがとうございました。それでは本日の会議をこれで終わらせていただきます。大変たくさんのお話をいただきましてありがとうございました。

（１６：００終了）